

株式会社 J E R A 御中

ハイランド石炭火力発電所建設問題を考える会  
呼びかけ人 印田信之

### 横須賀石炭火力発電所建設にかかわる再度の質問

私たちは、昨年12月に「質問・要望」を送りました「ハイランド石炭火力発電所建設問題を考える会」です。今年の1月に佐々木様より回答をいただきました。その節はありがとうございました。

その回答には、石炭火力が経済性に優れ、今後の日本にとって必要となる電源であるということ。その上で「JERA ゼロエミッション 2050」で示した通りに、脱炭素にむけ、開発を促進していくということでありました。ということで、残念ながら、質問・要望については、お答をいただくことはできませんでした。

その後、国内においては、2030年に向けてのCO<sub>2</sub>排出量削減目標が26%から46%（2013年度比）にと引き上げられ、国際的には、G7や国連（COPやIPCC）などでの討議を通して、脱石炭の動きが大きく加速しています。と同時に、温暖化が急激に加速しており、日本をはじめ多くの国で、熱波、森林火災、水害等の被害が発生しています。

更に、横須賀市でも、「カーボンゼロ宣言 2050」を発表しており、国が目指す2030年に46%（2013年度比CO<sub>2</sub>排出の削減）に取り組みが始まろうとしています。

このような状況において、貴社の取り組みについて質問をいたします。今回はぜひ、ご回答をいただきたくお願い申し上げます。

質問1. アンモニア混焼を2030年前半に20%達成（JERA ゼロエミッション 2050 日本版ロードマップ）とあります。（2021年から愛知県に保有する碧南火力発電所（100万kW）で、20%混焼の実証試験の段階）横須賀火力発電所ではいつからアンモニア混焼の実用化を始める予定なのでしょうか。

質問2. 国内の石炭火力の20%アンモニア混焼にするためにはアンモニアを2000万トン必要とのことです。現在肥料として使っているアンモニア消費量は108万トン（2019年）です。新たに大量のアンモニアを2030年までに調達（供給）することは可能なのですか？

質問3. アンモニアは海外から輸入するとのことですが、アンモニア製造過程においてカーボンフリーが実現出来る見通しはあるのでしょうか。アンモニア製造過程でカーボンフリーを実現するためにCCS、CO<sub>2</sub>-EOR等の技術を使うとのことですが、実用化はまだされていません。難しいのではないのでしょうか。

質問4. 石炭火力は経済性に優れているとのことですが、経産省の資料（8月3日発表）によると、石炭火力は洋上風力に次いで発電コストが高く出ています。アンモニアを混焼するとなるとさらにコストはかかるのではないかと思います。採算をどのようにお考えなのか教えてください。

私たちは、貴社が温暖化を止めるためにCO<sub>2</sub>ゼロエミッションに取り組まれることについて、評価したいと思います。同時にこの取り組みが温暖化のスピードに間に合わないのではという危惧も抱いております。地元で石炭火力発電所が建設されることは、健康被害の心配と共に、横須賀市が市民と共同で取り組んでいる省エネや脱炭素の取り組みにマイナスになるとも思っています。

前回はお答えいただけなかったのですが、貴社の見解をぜひお聞かせいただきたいと改めてお願いいたします。

連絡先

印田信之

〒239-0833

横須賀市ハイランド2-47-1

090-3431-1450